

令和元年8月30日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02354

研究課題名(和文) 冷戦初期アメリカ文学研究・人種・ジェンダー・アクティビズム

研究課題名(英文) Race, Gender, and Activism in American Literature in Early Cold War Era

研究代表者

平塚 博子 (HIRATSUKA, Hiroko)

日本大学・生産工学部・准教授

研究者番号：80407379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1940年代から50年代の第二次世界大戦から冷戦初期に書かれたアメリカの作家の文学作品とアクティビズムを分析した。Lillian SmithやAnn Petryといった作家の文学作品と政治活動を検討することによって、この時期に見られたアクティビズムと融合した多様な文学の形態を明らかにした。また、こうした作品が冷戦初期のアメリカ文学について新たな定義を与えるとともに、60年代以降本格化する文学と政治活動の融合との連続性を示していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は冷戦初期に書かれたアメリカの作家の文学作品とアクティビズムを分析し、この時代の作家による文学と政治活動を融合した独自の文学形式を明らかにすることによって、冷戦初期アメリカ文学をより包括的に分析しアメリカ文学史に新たな知見を加えている。さらに、本研究は冷戦初期にみられる文学と社会運動の融合と1960年代以降のそれとの関連性において検討することで、1960年代以降の芸術と社会運動の起源や形式が多様であることを明らかにし、それについて新たな定義を与える。

研究成果の概要(英文)：This project analyzed American literature written from late the 1940s to the 1950s and the activism American writers were involved. Exploring the writers such as Lillian Smith and Ann Petry, this project shows that these writers diversify the forms of American literature by combining literature and activism. This project also illustrates that these literary works give a new definition of American literature during early Cold War period, showing the continuity with literature and activism after the 1960s.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学 アメリカ史 ジェンダー エスニシティ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまで取り上げられることが少なく、近年研究の端緒が開かれ始めた戦時期から冷戦初期に活躍したアフリカ系白人双方の女性作家の文学作品とアクティビズムを分析するものであった。この時期の女性作家については、最近何冊かの研究書が出版されているものの、アフリカ系女性作家に特化した研究であるか、もしくはアメリカまたは南部女性文学研究の枠組みで語られることがほとんどである。アクティビズムという観点から、この時期のアフリカ系女性作家と白人女性作家を横断的に取り上げた多面的かつ包括的な分析はほとんどなされておらず、依然として未開拓の分野と言える。このことから本研究は、研究領域が関係する冷戦文学研究、アフリカ系文学研究そして女性文学研究など様々な領域において新たな研究の切り口を提示すると同時に、従来の研究において欠落していた部分を補う研究になると考えられた。

2. 研究の目的

本研究は 1940 年代から 50 年代の第二次世界大戦から冷戦初期に書かれたアメリカの作家の文学作品とアクティビズムを分析する。戦争と冷戦を通じて急速にグローバル化してゆくアメリカ社会のなかで、人種とジェンダーという問題をナショナルでインターナショナルな視点から見直したアメリカ作家の作品とアクティビズムを、これまで取り上げられることが少なかったアフリカ系そして白人女性作家も含めて多面的に考察することで、この時代のアメリカの作家たちの文学作品とアクティビズムをハイブリッドな視点から検証する。この時期の作家たちの活動を 50 年代後半以降本格化様々な社会運動との連続性の中で捉えることで、この時期の作家たちが与えた影響の重要性を明らかにすると同時に、従来のアメリカ文学・文化研究に新たな視点を提供することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

研究の方法は、基本的には一次資料の収集、精読、分析である。一次資料については購入可能なものについては購入し、また国内の図書館に所蔵の場合は複写、Web などを使って入手した。しかしこれらの資料のほかに未出版の原稿、手書きの原稿、書簡などに入手困難なものに関しては、現地へ赴き複写あるいは筆写で入手した。また、この時代の一時資料を分析するにあたっては、この時期の人種やジェンダーに関する様々な規範を多角的に理解することが必要となってくるため、『ライフ』等のこの時期に発行された大衆メディアの研究をさらに精査するとともに、『エボニー』やなどアフリカ系向けメディアに関する資料の収集、精読分析も行った。そうすることで、時期のアメリカ文学における人種そしてジェンダー表象及びアクティビズムを多面的かつ包括的に考察した。そして国内外の学会にて、研究成果を発表し評価を仰いだ。研究機関に行った具体的な研究は以下の通りである。

(1) 2015 年度は、冷戦初期アメリカのアフリカ系作家や女性作家を分析する上で重要と考えられ、かつこれまでの研究を行ってきた William Faulkner などのリベラル系男性作家の研究をまとめつつ、Ann Petry らのアフリカ系の女性作家の第一次資料の収集、精読、分析を行った。平成 27 年度は家庭の事情等で予定していた海外でのアーカイブ調査はできなかったものの、国内の図書館や Web 等を利用して 1 資料の収集、精読、分析を行った。

(2) 2016 年度はまず、平成 27 年度に調査と分析を行った William Faulkner などのリベラル系男性作家の研究をまとめた。その研究成果を、第 12 回国際文化表現学会全国大会で口頭発表し、論文としてまとめ Soundings (42 号) で発表し、評価を仰いだ。

さらに 8 月末から 1 週間ほどアメリカに出向き、ニューヨーク公立図書館および分館のショーンバーグブラックカルチャーセンターにて、Ann Petry らのアフリカ系の女性作家の第一次資料の収集を行い、それらを精読、分析した。その研究成果の一端は、日本アメリカ文学会第 55 回全国大会にて口頭発表し、評価を仰いだ。

また調査対象の作家のアクティビズムとその社会背景を多角的に検証するため、雑誌や新聞をはじめとする当時のメディアに関する一次資料の収集、精読、分析も行った。その研究成果の一端を、2017 WELL Conference、ジェンダー史学会第 13 回年次大会にて発表し評価を仰いだ。

(3) 2017 年度は、2016 年度から行っているアフリカ系の女性作家の第一次資料の収集、精読、分析を継続しつつ、Lillian Smith らの白人女性作家の一次資料の収集、精読、分析を行った。また当時のメディアとの関連性の中で考察することで、より多角的な文学作品とそのアクティビズムについて考察を試みた。それらの研究成果については、ジェンダー史学会第 14 回年次大会での口頭発表、ギリシアの PANTEION UNIVERSITY OF SOCIAL AND POLITICAL SCIENCES にて、修士課程の学生向けのセミナーにて、スピーカーとして招待され講演を行うことで評価を仰いだ。

(4) 2018 年度は、2017 年度から行っている Lilian Smith らの白人女性作家の第一次資料の収集、精読、分析を継続しつつ、その研究成果の一端を共著の図書として発表することで評価を仰いだ。

さらに、この時代のメディアに関する一次資料の収集、精読、分析も引き続き行った。大衆メディアについての資料収集に加えて、2018年度は、2019年2月末より米国のニューヨーク公立図書館および分館のショーンバーグセンターにおいて、Ann PetryやLillian Smithらの女性作家がジャーナリストや編集者として携わった新聞や雑誌に関する第一次資料収集、精読、分析を行った。そして、メディアに関する研究成果の一端をカナダのバンクーバーで行われた国際学会、2018 Conference of the International Federation for Research on Women's History: Transnationalism, Transgression, Translation at Simon Fraser Universityで発表し、評価を仰いだ。

4. 研究成果

本研究は、これまで冷戦というコンテキストで論じられることの少なかった Ann Petry や Lillian Smith などのアメリカ人作家が戦後から冷戦初期に書いた作品を、その作家の政治的な意識やアクティビズムとの関連において分析を行ったものである。本研究の期間を通じての研究の成果を論文1編、共著の図書1冊、口頭発表8回として発表した。各年度の研究成果の詳細は以下のとおりである。

(1) 本研究の成果の一つはこうした作品を、冷戦というコンテキストで分析することで、冷戦期文学の多様性を明らかにしたことにある。さらにこうした作品を、戦争および冷戦を通じて急速にグローバル化してゆくアメリカ社会というコンテキストにおいて検討しなおすことで、この時代の作家たちがアメリカでナショナルな問題として浮上り始めてきた人種とジェンダーといった問題を、インターナショナルな視点から捉えていたことを明らかにしたことにある。こうした視点は、1960年代以降に盛んとなるブラックアーツムーブメントやフェミニズム運動などにみられる芸術と政治運動の融合への関連性を示しつつ、こうした運動の定義に新たな視点を加えるものであることを明らかにした。加えて、冷戦初期の作品にみられるグローバルな視点から、ローカルな問題を多様性や流動性のなかで見つめる視点は、20世紀の終わりから21世紀に入って盛んとなったニューサザンスタディーズに見られる、地域研究におけるグローバルな視点と呼応する現代性のあるものであり、この点は研究開始当初は考えていなかったものの、今回の研究を通じて得られた新たな知見であった。こうした研究の成果は、William Faulknerに関する論文1本、Lillian Smithに関する共著の図書1冊として刊行した。そして、日本アメリカ文学学会第55回全国大会で行った Ann Petry に関する口頭発表を含めた2回の口頭発表を行った。

(2) また本研究の特徴の一つは、冷戦初期の作家の作品を雑誌や新聞などのメディアとの関連で研究した点にある。特に冷戦初期の女性作家はジャーナリストや編集者として、新聞や雑誌の刊行に関わっており、この時代の作家たちのこうした活動が、冷戦初期のアメリカ文学の形式に多様性を与えていたことを明らかにしたことが、本研究の成果といえる。また、この時代の女性作家のメディアとの関係は未だ十分な研究がなされておらず、今後、ジェンダースタディーズ、女性史、ピリオディカルスタディーズやメディア研究といったコンテキストで分析を進めることで、新たな知見が得られることが考えられる。これについては、今後も一次資料の収集、精読分析を継続し、論文としてまとめいく予定である。冷戦初期のメディアについては、2018 Conference of the International Federation for Research on Women's History: Transnationalism, Transgression, Translation at Simon Fraser University などの国際学会、およびジェンダー史学会他国内の学会で合計6回の口頭発表を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

平塚博子 「冷戦・グローバル化：閉じられた南部の終わりの物語としてのウィリアム・フォークナーの『館』」、査読有、Soundings42号、2016年、p.p.5-18

〔学会発表〕(計8件)

HIRATSUKA Hiroko, "Ambiguous Deviance From Femininity: American Women in Uniform in American Magazines During World War II" 2018 Conference of the International Federation for Research on Women's History: Transnationalism, Transgression, Translation at Simon Fraser University, 2018年

HIRATSUKA Hiroko, "Women as a Cold Worrier: East Asia and Gender in American magazines in early Cold War era" Postgraduate Workshop at Research Unit for the Documentation and Study of the History of the Greek Press(ETMIET) at Panteion University, 2018年

HIRATSUKA Hiroko, "Not Just a Middle-Class Housewife: The Representation of the Changing Roles of Women in Popular Periodicals" Postgraduate Workshop at Research Unit for the Documentation and Study of the History of the Greek Press(ETMIET) at Panteion University, 2018年

平塚博子「越えがたきはカラーラインよりジェンダーライン? : 戦中・戦後の『ライフ』が描くアメリカン・アイデンティティにおける連続性・非連続性」(パネル全体タイトル「大衆メディアにみる「総力戦体制」の表彰と戦後における連続性」) ジェンダー史学会第14回年次大会、2017年

HIRATSUKA Hiroko, "American Women in Uniform in LIFE magazine During WWII" 2017 WELL Conference、2017年

平塚博子、「60年代アメリカにおけるメディアとジェンダー表象—『ライフ』誌が描いた「アメリカン・ウーマン」」 ジェンダー史学会第13回年次大会、2016年12月

平塚博子、「Ann Petryの*The Narrows*における人種・ジェンダー・冷戦」日本アメリカ文学学会第55回全国大会、2016年

平塚博子、「冷戦期南部小説としてのウィリアム・フォークナーの『館』」国際文化表現学会第12回全国大会、2016年

〔図書〕(計1件)

平塚博子 他 金星堂『ノンフィクションの英米文学』2018年、438頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者 なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。